

「太宰治記念文学館(仮称)」及び「吉村昭書斎(仮称)」の整備に向けた
基本的な考え方

～「文学の薫り高いまち三鷹」からの発信～

平成 30 年（2018 年） 3 月

三鷹市

I 「太宰治記念文学館（仮称）」及び「吉村昭書斎（仮称）」に関する基本的な考え方

1 「文学の薫り高いまち三鷹」としてのまちづくり

三鷹市は多くの著名な作家が住み、多くのすばらしい作品が生み出されてきた、文学の薫り高いまちである。井の頭恩賜公園や玉川上水に代表される緑豊かな三鷹のまちは、明治、大正、昭和の時代を通じて、東京の中心部と武蔵野の自然豊かな多摩地域の境界に位置するまちとして、多くの作家が好んで移り住み、生活と創作の場としてきた歴史がある。

三鷹市では、従来から、三鷹市美術ギャラリーや三鷹市芸術文化センター、太宰治文学サロン、山本有三記念館などの既存施設を活用して三鷹にゆかりの深い作家に関する顕彰事業を実施してきた。これまでの取り組みをさらに進め、三鷹市に特にゆかりの深い作家の顕彰を目的として、「太宰治記念文学館（仮称）」及び「吉村昭書斎（仮称）」を整備する。

三鷹市にゆかりが深く、全国的、全世界的に高名な2人の作家を顕彰する常設的な場を設けることで、「文学の薫り高いまち三鷹」のまちづくりをより深く推進することを目指す。

2 これまでの取り組みと背景

三鷹市では、山本有三記念館を中心とした様々な取り組みや、太宰治に関連した「太宰が生きたまち・三鷹」の顕彰事業、「吉村昭文学回顧展」等の企画展示を多数開催してきた。三鷹市及び公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団がこれまでに開催してきた文学関連の事業は多岐にわたる。

このように多くの作家に愛された歴史的背景、協働による芸術文化のまちづくりの取り組みのなかで、特に三鷹に住まいを構えた太宰治、そして、同じく三鷹に住まいを構え、太宰治賞初代受賞者である吉村昭への注目は高く、常設的な展示施設を設置する気運が高まっている。

3 施設整備の基本的な考え方

「太宰治記念文学館（仮称）」及び「吉村昭書斎（仮称）」では、それぞれ、太宰治と吉村昭の遺品等の貴重な資料等を保存・展示するほか、来館者、ボランティア等の交流や朗読会等のイベント、図書資料のレファレンス等を想定した機能を有するものとする。

【想定される施設の規模】

太宰治記念文学館（仮称） 約 500 m²（延床面積）

吉村昭書斎（仮称） 約 30 m²

Ⅱ 太宰治記念文学館（仮称）整備の考え方

1 事業の目的と背景

太宰治は、昭和 14 年（1939 年）9 月から亡くなる昭和 23 年（1948 年）6 月までの間、疎開期間の一時期を除き三鷹市下連雀で過ごし、多くの作品を執筆した。作品の中に三鷹あるいは井の頭恩賜公園が頻繁に登場するなど、三鷹に最もゆかりの深い作家のひとりである。

太宰治に関しては、以前から市民が主体となったグループによる研究活動が行われてきた。平成 4 年（1992 年）には、当時の三鷹市文化振興事業団が、太宰治の妻である津島美知子氏ほか多くの方々の協力で「太宰治展―「斜陽」の時―」を開催し、平成 10 年（1998 年）には、没後 50 年を機に、筑摩書房主催の「太宰治賞」を共同開催することとし、企画展「太宰治展―心の王者―」を吉村昭や高橋源一郎ほか多くの作家や研究者等の協力で開催した。

平成 20 年（2008 年）には没後 60 年、平成 21 年（2009 年）には生誕 100 年を迎えることから、太宰治をテーマとした文化事業及び観光事業を展開するために平成 19 年（2007 年）に「太宰治プロジェクト検討会議」を設置した。その取り組みの一つとして、平成 20 年（2008 年）には、太宰治に関する情報交流と発信の場として太宰治文学サロンを開設した。同年には、「太宰治 三鷹からのメッセージ―没後 60 年記念展―」、翌年には「太宰治の肖像―生誕 100 年記念写真展―」を開催し、太宰治と三鷹のゆかりの深さを市内外に発信した。

平成 26 年（2014 年）、三鷹市は、太宰治の遺族である津島家から三鷹にゆかりのある貴重な資料の寄託を受けた。それらの資料を広く公開するために、平成 27 年（2015 年）と平成 28 年（2016 年）に「津島家寄託 太宰治資料展」を開催した。企画展以外にも、太宰治文学サロンにおいて、年 3 回の企画展示や定例朗読会を開催するとともに、ガイドボランティアによる来館者との交流や案内を常時、開催している。

このように三鷹市は「太宰が生きたまち」として、長年にわたって太宰治の顕彰の取り組みを継続しており、市や公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団による取り組みに加えて、太宰愛好者を中心とした市民による独自の取り組みが多数あることが特色となっている。

2 施設整備の基本理念

「太宰が生きたまち・三鷹」の発信拠点となる「太宰治記念文学館（仮称）」は、三鷹を訪れてこそわかる「太宰が三鷹に生きた証し」を現在に伝え、太宰文学を理解する上で重要な「人間・太宰治」を顕彰する施設とする。

太宰治に関する関連施設と全国的な連携を図るとともに、「太宰が生きたま

ち」であるからこそできる調査・研究や資料収集についても力を入れる。

また、国内外の太宰治愛好者が集い、情報交換をする場となるとともに、ガイドボランティア等で主体的に活動する市民の活動拠点として、太宰を愛する市民が、太宰を愛する来街者と交流する場となるように整備する。

3 太宰治記念文学館（仮称）に求められる機能の概要

(1) 展示室

太宰治記念文学館（仮称）は三鷹市が寄贈・寄託を受けている貴重な資料等の常設展示と、三鷹ならではの視点から太宰治を顕彰する企画展示の2つの展示機能を併せ持つことが必要である。

常設展示室と企画展示室が一体的な運用をしやすい配置であることは重要だが、一方で年に複数回想定される企画展示の設営等にあたっても、常設展示室を閉めることなく観覧できるような間取りにすることが望ましい。

① 常設展示室

常設展示は三鷹時代の太宰治に特化したものとし、仕事部屋の復元やジオラマなど、視覚効果によって、太宰治が三鷹に生きたことを伝える展示とする。また、津島家より寄贈・寄託された資料を中心に、太宰治の自宅写真などを元に、当時の太宰一家の生活が垣間見られるような空間を創出する。

三鷹駅前の太宰治足跡案内の映像などを館内で常時上映することで、来館者が、太宰が三鷹で過ごした9年間に思いを馳せる展示とする。

② 企画展示室

年に複数回の企画展を開催し、様々なテーマ設定によって多角的に太宰治を捉える。国内の関連施設との連携による企画の実施や、寄贈・寄託・購入などによる新収蔵資料公開の場としての機能も果たすことで、リピーターを確保する。

(2) 収蔵庫

収集・保管事業を行う場として、収蔵庫、荷捌室等を設ける。充実した企画展示の開催を想定し、他機関からの資料の借用を可能とする。また、寄贈された貴重な展示物を安全に保管できるように、高いレベルの安全性を備えた収蔵庫を設置する。

なお、限られたスペースの中に全ての収蔵機能を持たせることは物理的な制約もあることから、施設に備えるべき収蔵機能と、三鷹市全体として持つべき収蔵機能のあり方については、その質や量などを総合的に検討する必要がある。

(3) 協働・連携機能

市民ボランティアの活動の拠点となることや、国内外から訪れる愛好者や研究者と三鷹市民との交流、学生や研究者への情報提供、国内の関連施設との連携など、協働と連携を推進するための拠点機能が必要とされる。

①交流・サービス機能

文化観光事業、地域連携事業、利用者サービス事業等を行う場として、喫茶スペース及びミュージアムショップを設ける。

喫茶スペースについては、朗読会やミニ講演会などのイベントも想定し、多目的に活用できる空間とする。展示公開部門との利用時間帯が異なる場合を想定し、喫茶スペース単独での運営を可能とする配置計画とする。

②情報提供機能

情報提供・発信事業・教育普及事業等を行う場として、情報コーナー・レファレンスコーナーを備える。オンライン資料を活用し、外部と連携した調査・研究の場、文化観光事業の場としても活用する。

なお、作品や資料の閲覧については、喫茶スペースや常設展示の一環として、作品等を気軽に手に取って読んでみることのできる機能等も検討する。

③市民協働・施設運営機能

施設の管理運営機能に加えて、展示解説等を行なうボランティアの活動拠点等を確保する必要がある。

(4) 太宰治記念文学館（仮称）整備の方向性

平成 29 年度に、施設の位置を井の頭恩賜公園内の「万助橋付近」及び「文化・交流エリア東側広場」として、『井の頭恩賜公園内に建設する「井の頭文学施設（仮称）」』の基本設計を行った。（次頁、＜参考＞のとおり）

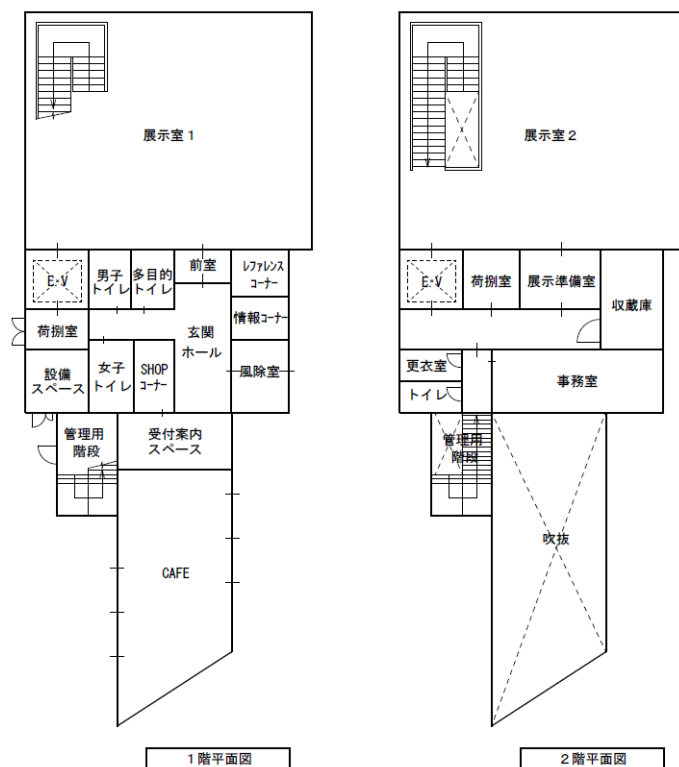
これらの配置案に共通する機能として、「常設展示室と企画展示室の連携と役割分担」「協働・連携機能の充実」「喫茶スペースの配置とイベント等の会場としての活用」などが挙げられる。

また、運営面からの考察では「収蔵庫の規模と役割」「貴重な展示品を守るための空調や消火設備の必要性」「来館者導線と運営的導線との区分け」などが挙げられる。

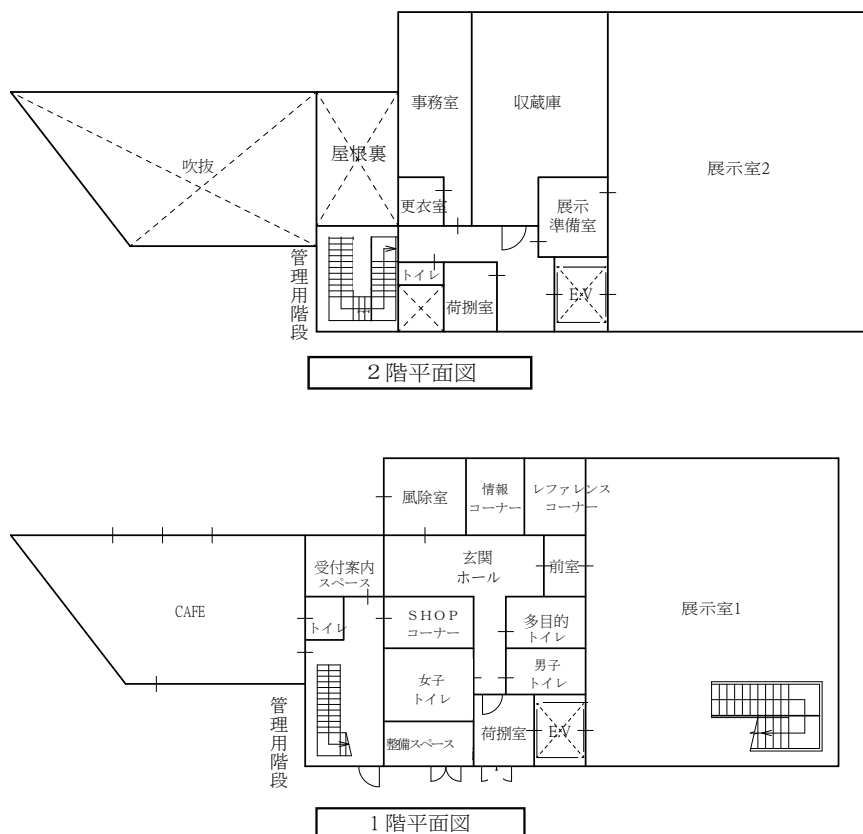
施設の候補地については、井の頭恩賜公園以外の場所に設置することとしており、今後はこれらの考察を参考にしながら、施設整備に向けて多角的に検討を行う。

<参考>

施設の位置を、万助橋付近とした太宰治記念文学館（仮称）の配置案



施設の位置を、文化・交流エリア東側広場とした
太宰治記念文学館（仮称）の配置案



Ⅲ 吉村昭書斎（仮称）整備の考え方

1 事業の目的と背景

吉村昭は、井の頭恩賜公園にほど近い三鷹市井の頭に長年居住し、「戦艦武蔵」「破獄」「三陸海岸大津波」「関東大震災」など、多くの作品を発表してきた、現代の人気作家である。また、執筆活動に打ち込んだ自宅敷地内の書斎より眺める風景を愛し、調査旅行を切り上げて帰宅し執筆にあたったとの逸話も残されている。

吉村昭は、妻の津村節子氏とともに、文学賞の候補者となるたびに、井の頭恩賜公園内の弁財天に受賞を祈願していた。吉村昭は昭和41年（1966年）に新人文学賞である太宰治賞の初代受賞者となるなど、間接的ながら太宰治とゆかりがある。

三鷹市では、これまで「吉村昭文学回顧展」（平成19年度）、市制施行60周年記念展「三鷹ゆかりの文学者たち」（平成22年度）、「作家 津村節子の世界 ―夫 吉村昭とともに― 展」（平成27年～28年度）を開催しており、顕彰事業の継続と文化発信拠点として、書斎を移設して常設的な展示施設とし、三鷹図書館が所蔵する多くの初版本等を併せて公開することで、「文学の薫り高いまち三鷹」としての魅力向上を図ることを目的とする。

なお三鷹市は、津村節子氏及び吉村家から、書斎を市に寄贈した上で保存・公開することについて承諾を得ている。

2 施設整備の基本理念

吉村昭は、歴史小説作家として、徹底した史実調査に基づく記録小説を数多く世に送り出しており、執筆活動を行っていた書斎は、本棚により天井まで本がそそり立つ濃密な空間、地図や歴史書を広げられる大きな机などがあり、文学的価値が高い。

本施設計画は、吉村昭の執筆活動の原点とも言える空間を垣間見ることができ施設として、書斎を移設・再現し公開することで、作家・吉村昭を語り継いでいく上での重要な「場」となることを目指す。

3 吉村昭書斎（仮称）に求められる機能の概要

(1) 書斎及び和室の移築

書斎と和室は既存の家具と内装を再利用する事で、形状だけでなく、雰囲気等を含めた空間を再現する。また、吉村昭の作品や日記、机の上の文房具等を展示することで、当時の執筆活動空間をより鮮明に把握できるようにする。

また、書斎、和室に関しては進入可能エリアを予め区画することで、展示されている書籍や文房具等の貴重な資料に直接手が触れることを防ぎ、破損、盗難を防止する。

(2) 展示機能について

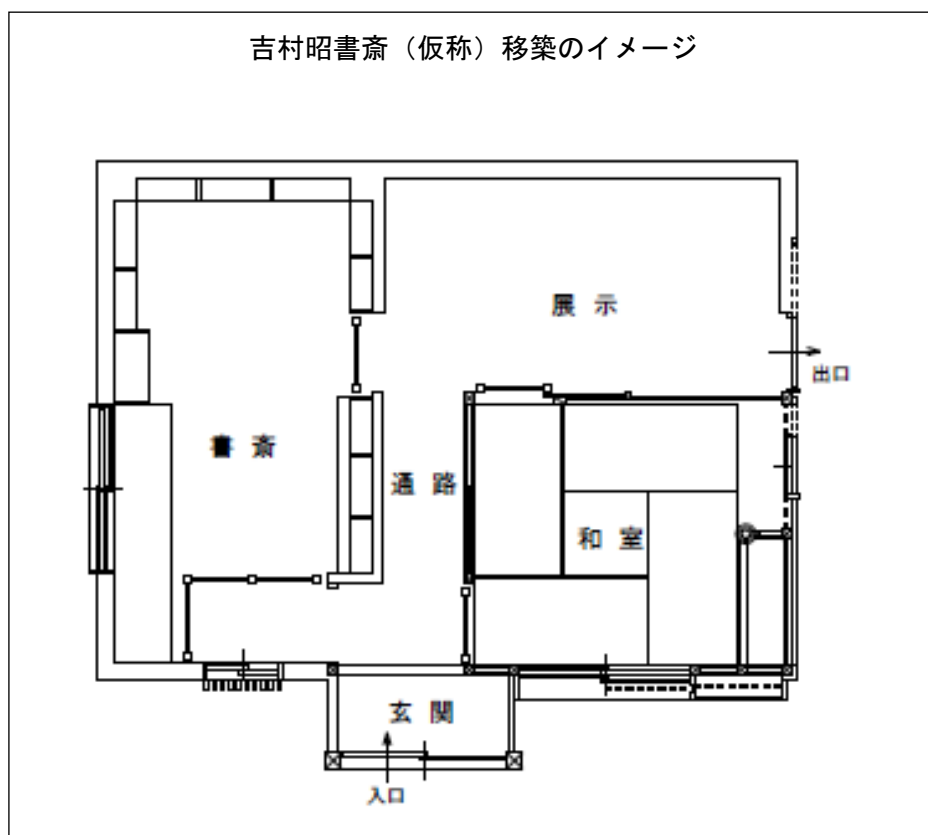
移築した書斎の中に展示機能を持たせるために、既存のトイレや水場等を改修して展示室とし、吉村昭、津村節子の執筆活動に関する資料や当時の書斎の写真等を展示することで、来館者が吉村昭・津村節子の作品等をより身近に感じられるよう整備する。

(3) その他

構造体に関しては、現行法規に適合した構造にするとともに、施工性、耐久性を考慮し、新たに軽量鉄骨造で構築する。外観に関しても既存と同様の形状で再現する。

(4) 吉村昭書斎（仮称）移築のイメージ

吉村昭書斎（仮称）は、吉村家から寄贈予定の書斎について、適切な構造を確保しつつ、吉村昭が愛した書斎の実物を移築・復元するものとして計画する。また、展示機能を付加することで、吉村昭顕彰事業の発信の場とする。



Ⅳ 「太宰治記念文学館（仮称）」及び「吉村昭書斎（仮称）」の整備に向けて

1 建設場所の再検討及びスケジュールの見直しについて

「太宰治記念文学館（仮称）」及び「吉村昭書斎（仮称）」については、これまで、太宰治、吉村昭両氏のご遺族様及び東京都のご理解とご協力を得て検討を進めてきた。両施設は「井の頭文学施設（仮称）」として、都立井の頭恩賜公園内で建設することとしてきたが、この間、三鷹市議会からの当該事業について「慎重に進めるべき」とのご意見や、2回のパブリックコメントのご意見、昨年末の平成30年度予算編成の中で明らかになった国による地方消費税の清算基準の見直し及びふるさと納税によって一定の市税の減収が見込まれること、修正案で示した場所については基盤整備のために経費増が見込まれることなどの状況を総合的に判断し、都立井の頭恩賜公園以外の場所に設置することとする。また、平成31年度の開館を想定したスケジュールを見直し、今後の整備に向けて検討を進めることとする。

2 今後の検討の方向性について

「太宰治記念文学館（仮称）」及び「吉村昭書斎（仮称）」については、平成28・29年度の検討結果を活かしつつ、今後実施する特別展の開催など、顕彰事業のあり方や整備に向けた検討を継続して行う。施設整備の候補地については、「市有地」「市の既存施設の活用」や「市が今後整備する施設との複合化」など、今後、多様な考え方の中から多角的に検討する。

3 想定されるスケジュール（案）

(1) 平成29年度

『「太宰治記念文学館（仮称）」及び「吉村昭書斎（仮称）」の整備に向けた基本的な考え方』の策定

(2) 平成30年度

「三鷹市ゆかりの文学者顕彰事業検討会議（仮称）」の設置

「太宰治没後70年特別展」の開催及び生誕110年記念事業に向けた検討

「吉村昭・津村節子顕彰事業」の検討・実施

「太宰治記念文学館（仮称）」及び「吉村昭書斎（仮称）」の整備に向けた検討

(3) 平成31年度

「太宰治生誕110年特別展」の開催

「吉村昭・津村節子顕彰事業」の継続

「太宰治記念文学館（仮称）」及び「吉村昭書斎（仮称）」の整備に向けた検討の継続

《参考資料》

I 「太宰治記念文学館（仮称）」及び「吉村昭書斎（仮称）」整備基本プランに関するパブリックコメント《概要》

1 『井の頭恩賜公園内に建設する「井の頭文学施設（仮称）」に関する整備基本プラン（案）』のパブリックコメント概要

(1) 募集期間

平成 29 年 8 月 20 日（日）から平成 29 年 9 月 9 日（土）まで

(2) ご意見をいただいた人数

115 人（個人 111 人、団体 4 団体）

①ご意見の送付方法

メール：106 件 FAX：3 件 手紙・ハガキ：6 件

②居住地

市内：56 人 市外：55 人 不明：4 人

(3) ご意見をいただいた件数

302 件

市内在住者からの意見：164 件

市外在住者からの意見：132 件

居住地不明者からの意見：6 件

	意見の種類	件数（件）	人数（人）
①	施設整備に賛成・施設整備を前提としたもの	106	34
②	施設の位置に関するもの	69	64
	『万助橋付近』に整備するべきではない	52	50
	公園外で整備するべきだ	17	14
③	施設整備に反対するもの	22	17
④	整備基本プランの内容に対する質問・意見	93	25
⑤	計画の進め方に関するもの	12	8
合 計		302	※148

※複数の意見を提出している人がいることから 115 人とはならない。

2 『井の頭恩賜公園内に建設する「井の頭文学施設（仮称）」に関する整備基本プラン（修正案）』のパブリックコメント概要

(1) 募集期間

平成 29 年 12 月 15 日（金）から平成 30 年 1 月 4 日（木）まで

(2) ご意見をいただいた人数

112 人（個人 107 人、団体 5 団体）

※団体のうち、2 団体から 255 人分と 30 人分の署名の提出があった。

①ご意見の送付方法

メール：86 件 FAX：17 件 手紙・ハガキ：9 件

②居住地

市内：80 人 市外：25 人 不明：7 人

(3) ご意見をいただいた件数

193 件

市内在住者からの意見：143 件

市外在住者からの意見：42 件

居住地不明者からの意見：8 件

	意見の種類	件数 (件)	人数 (人)
①	施設整備に賛成・施設整備を前提としたもの	19	19
②	施設整備を前提としているが、候補地の位置に反対するもの	74	56
③	施設整備に反対するもの	54	36
④	整備基本プランの内容に対する質問・意見	38	24
⑤	計画の進め方に関するもの	8	8
合 計		193	※143

※複数の意見を提出している人がいることから 112 人とはならない。

Ⅱ 『井の頭恩賜公園内に設置する「井の頭文学施設（仮称）」』の基本設計

《概要》

1 基本設計までの作業概要

施設計画をまとめるに当たり建設予定地に対して下記の作業を実施した。

- ・基本設計：各関係者の意見を踏まえ、運営手法の検討及び計画図の作成
- ・敷地測量調査：候補地の敷地面積、高低差の把握
- ・地盤調査：地盤耐力の把握し、構造形式の検討

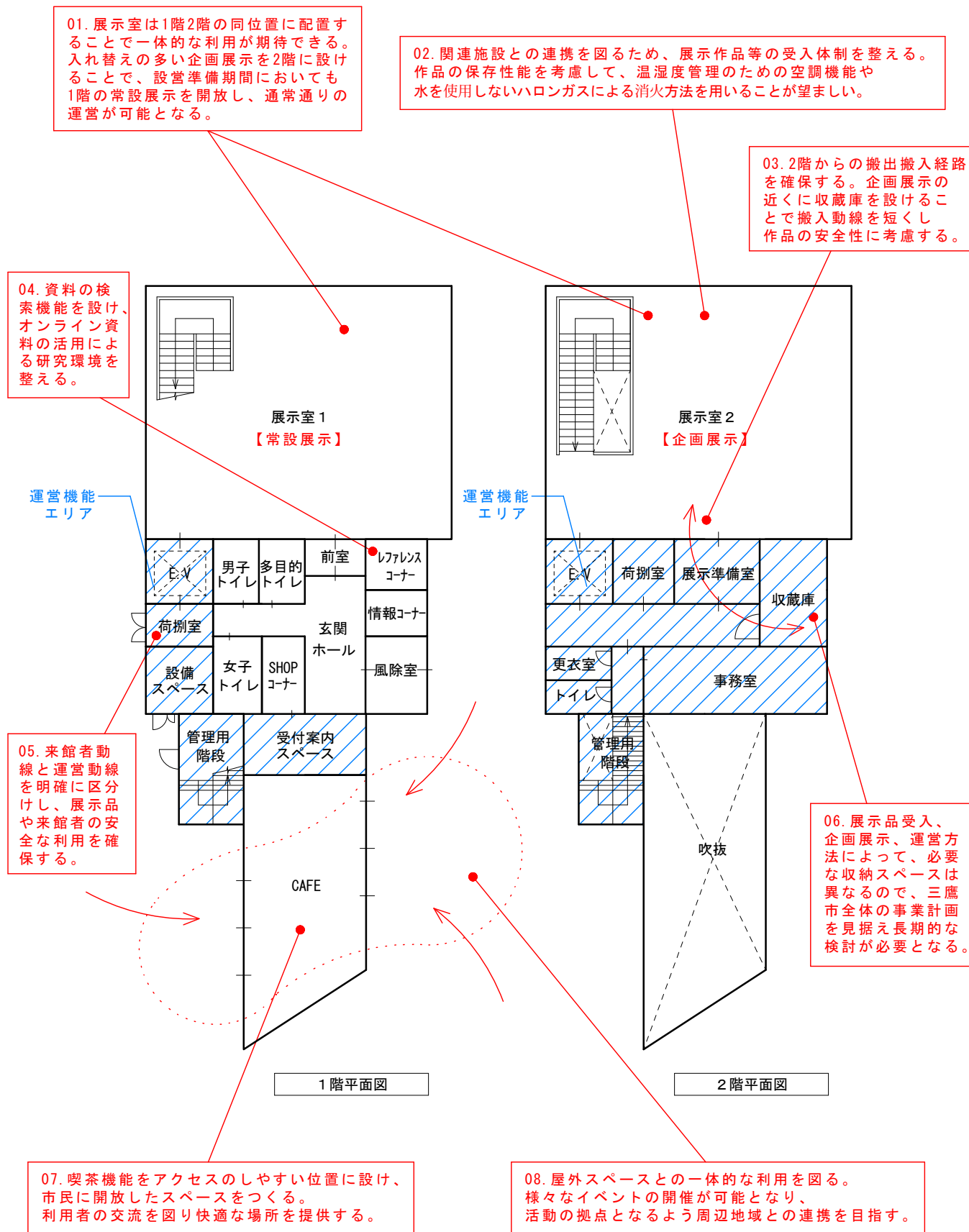
- ・ 樹木調査：既存樹木の樹種、高さ、枝張等把握し、配置計画の検討
- ・ 各種申請書類の作成及び手続き：各行政機関の許認可等に係る申請書類等の作成、事前協議を実施

2 今後の考え方に生かせる視点

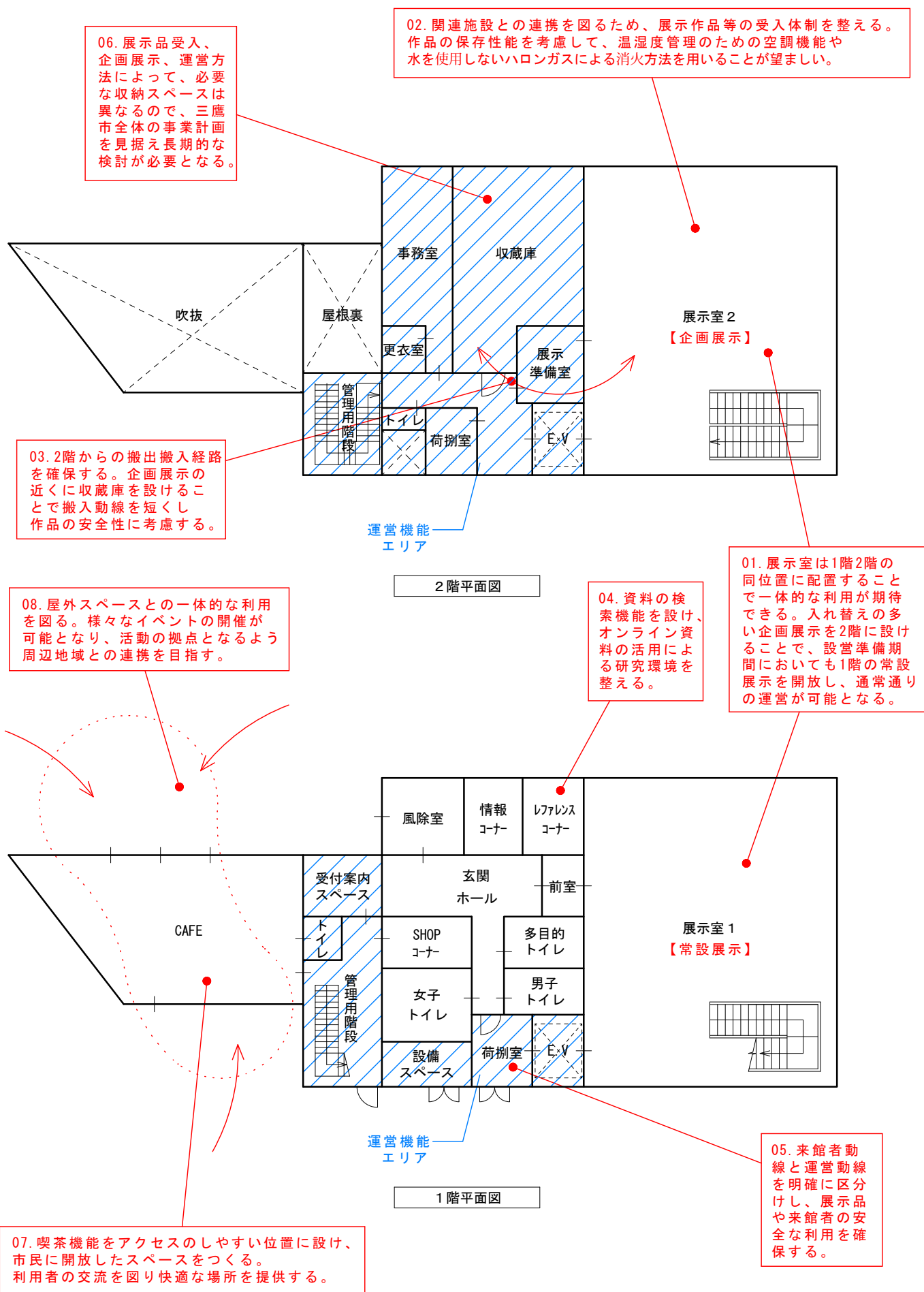
今回「万助橋付近の敷地」及び「文化・交流エリア東側広場敷地」の2敷地で基本設計を行ない、見えてきた課題や施設計画における今後の考え方を下記に示す。

01. 展示室は1階2階の同位置に配置することで一体的な利用が期待できる。
入れ替えの多い企画展示を2階に設けることで、設営準備期間においても1階の常設展示を開放し、通常通りの運営が可能となる。
02. 関連施設との連携を図るため、展示作品等の受入体制を整える。作品の保存性能を考慮して、温湿度管理のための空調機能や水を使用しないハロゲンガスによる消火方法を用いることが望ましい。
03. 2階からの搬出搬入経路を確保する。企画展示の近くに収蔵庫を設けることで搬入動線を短くし作品の安全性に考慮する。
04. 資料の検索機能を設け、オンライン資料の活用による研究環境を整える。
05. 来館者動線と運営動線を明確に区分けし、展示品や来館者の安全な利用を確保する。
06. 展示品受入、企画展示、運営方法によって、必要な収納スペースは異なるので、三鷹市全体の事業計画を見据え長期的な検討が必要となる。
07. 喫茶機能をアクセスのしやすい位置に設け、市民に開放したスペースをつくる。利用者の交流を図り快適な場所を提供する。
08. 屋外スペースとの一体的な利用を図る。様々なイベントの開催が可能となり、活動の拠点となるよう周辺地域との連携を目指す。
09. 吉村昭書斎は、作業机、本棚、和室等の実物を移築復元し、保存の安全性と展示機能を確保する。建物は現行法規も適合した構造とし、来館者エリアと保存エリアに区分けする計画が望ましい。

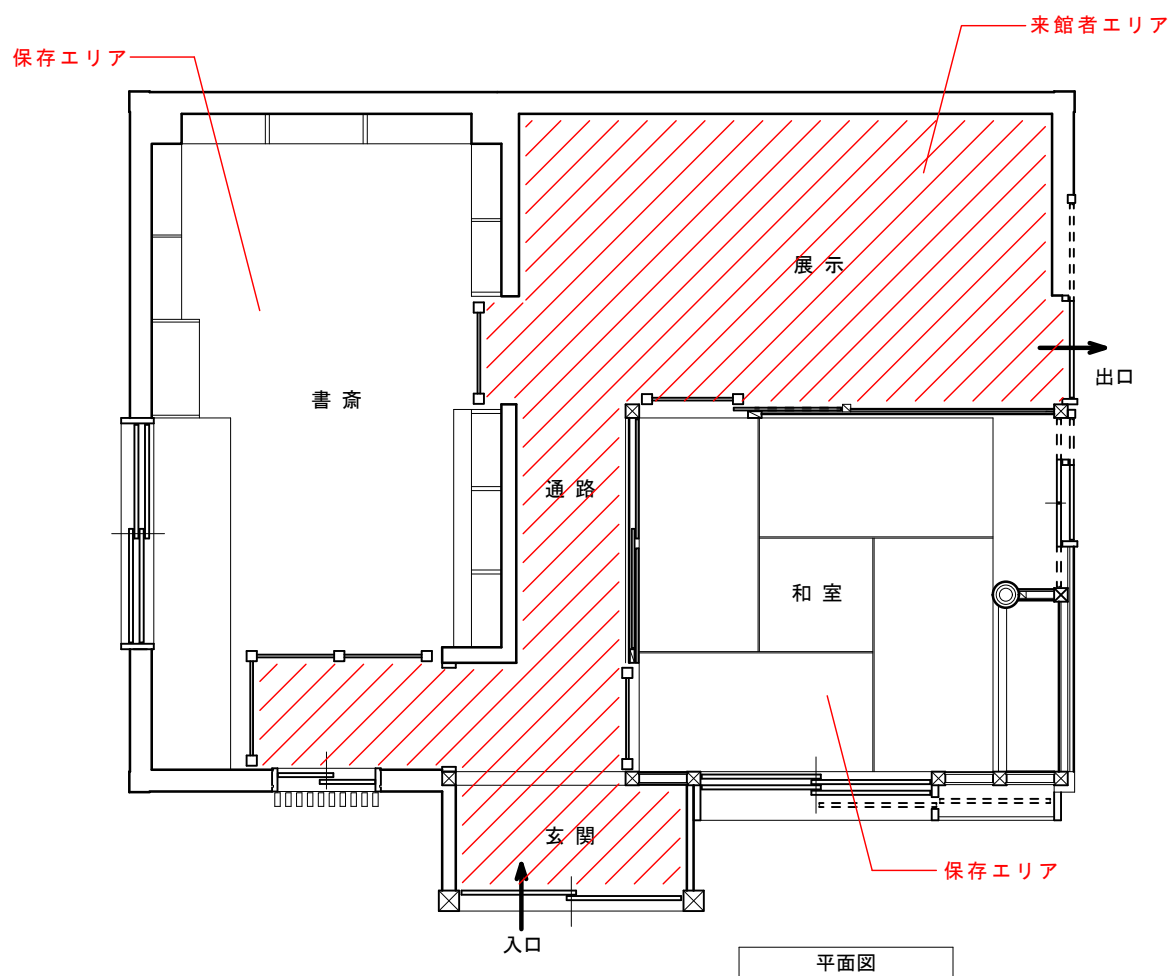
<施設の位置を、万助橋付近とした太宰治記念文学館（仮称）の配置案>



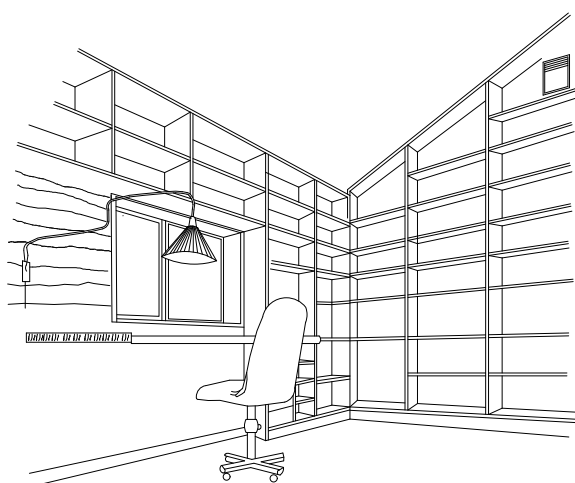
<施設の位置を、文化・交流エリア東側広場とした太宰治記念文学館（仮称）の配置案>



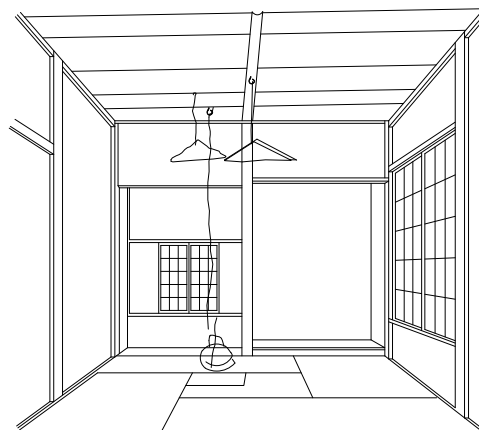
<吉村昭書斎（仮称）移築のイメージ>



09. 吉村昭書斎は、作業机、本棚、和室等の実物を移築復元し、保存の安全性と展示機能を確認する。建物は現行法規も適合した構造とし、来館者エリアと保存エリアに区分けする計画が望ましい。



書斎 内観パース



和室 内観パース

「太宰治記念文学館(仮称)」及び「吉村昭書斎(仮称)」の整備に向けた
基本的な考え方
～「文学の薫り高いまち三鷹」からの発信～

平成 30 年（2018 年） 3 月
三鷹市スポーツと文化部芸術文化課
〒181-8555 東京都三鷹市野崎一丁目 1 番 1 号
TEL 0422-45-1151（内線）2911・2912
E-mail : geijutsu@city.mitaka.tokyo.jp